

2017年 5月 6日

2016年度研究推進プログラム（科研費獲得推進型）研究成果報告書

採択者	所属機関・職名：経営学部・教授 氏名：佐藤典司
研究課題	自動運転車の導入による地域デザインの変容と課題に関する研究

I. 研究計画の概要

平成 29 年度科学研究費助成事業－科研費－申請時の研究計画について、概要を記入してください。

本研究は、進みつつある自動運転車の開発導入に関連して、将来、地域社会に導入された場合、地域の町づくりに対してどのような変化を及ぼすかについて、滋賀県近江八幡市を事例に、研究・分析を行うものである。自動運転車の影響は大きなインパクトを与え、人とクルマの関係や社会を大きく変えて行くと言われる。すでに自動運転車の一般路上実験は、google、ダイムラー社などが実施しているが、それに伴う社会変化については、推測の域を出ていない状況にある。本研究は、将来の自動運転車の導入に伴う地域社会の変化について、具体的な地域を事例に調査分析を行い、町づくりのあり方や課題について提言を行うものである。

研究者（佐藤）は、長年、デザインマネジメントの手法を使って、地域のブランド創造や伝統産業の発展、町づくりのあり方などについての研究、および実践活動を行ってきた。佐藤は、デザインの定義を、「人、モノ、自然、情報などの間の互いの関係や、コミュニケーションを、より円滑に、より好ましいものにするための諸活動」（佐藤 2002）として、研究をすすめてきた。本研究課題である自動運転車の導入は、地域の交通システムや経済活動のみならず、コミュニティ、医療・介護、教育、防災、都市計画全体など地域デザイン基盤に大きく影響を与えることが予想される。その意味で、自動運転車の導入は、地域社会のハード、ソフト両面のデザインについて再考を促すものと考えられる。

II. 研究成果の概要

本プログラムの助成を受けたことによる研究成果について、概要を記入してください。

滋賀県近江八幡市は、琵琶湖の東湖畔に位置する人口約 82000 人の中都市（高齢者人口比率 25.5%）である。古くは、織田信長の安土城、豊臣秀次の八幡山城が築かれた城下町として栄え、現在は、かつての近江商人屋敷街やヴォーリーズによる近代建築、琵琶湖畔や沖島などの自然を中心とする観光産業、菓子製造販売の「たねや」の本店・工場所在知としても全国的に知られ、滋賀県の中でも、都市街区と自然区域の両面をあわせ持つバランスのとれた都市である。

本研究は、近江八幡市役所、近江八幡商工会議所などの協力のもとに、将来、自動運転車が一般道路に普及し始めたと仮定して、近江八幡市の産業、交通・運輸システム、高齢者や障害者の生活、緊急時・災害時への対応、環境、土地利用、行政の対応方などに、どのような影響変化が予想されるか、フィールド調査と、面接形式によるインタビュー調査を通じて行われた。

結果として、将来的に自動運転システムの市街地へ導入された場合のさらなる具体的な効果検証は、市役所、商工会議所の判断として見送られたものの、当市では、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（2015 年 10 月）を推進するための施策として「健康長寿の安寧のまちづくり」（2016 年 3 月）を掲げ、生涯活躍のまちづくりに取り組んでおり、自動運転システムのみならず、全般的なデザインマネジメントの手法を通じた近江八幡市のまちづくりを進めるプロジェクトへとつながることとなった。その成果として、立命館大学と近江八幡商工会議所が共同して取り組んだ、東京大学公共政策大学院が企画実施する COG（チャレンジ・オープンガバナンス）プロジェクトへの応募企画が入賞（2017 年 2 月）し、平成 29 年度の当該案の実施に向けての研究作業が現在進行している。